

アルカディア探訪

静岡県が推進する「ふじのくに美しく品格のある邑づくり」は、見逃しがちな小さなアルカディアを探し出す新たな取り組みだ。風土に育まれた個性を生かしながら、多彩な取り組みによって農山漁村の可能性を切り拓く姿勢に、これからの国づくりに向けたヒントが隠されている。

地域一丸で 自然と共存する 活気ある農村

沼津市 浮島



湾処は大人と子どもの触れ合いの場にもなっている。ひまわり畑は毎年7月下旬に最盛期を迎える。



アクセス
JR原駅から車で約5分
東名沼津ICから車で約20分

次代にも語り継ぎたい農村文化

富士山と愛鷹山を背景に広大な水田が広がる沼津市浮島地区は、かつて富士八湖の一つに数えられ、浮島沼の名で全国にも知られたエリアだ。アシ、ヨシ、マコモなどの湿地性植物が堆積した軟弱な土壌は、田植えなどの農作業を腰や胸まで泥に漬かる過酷な作業にする一方で、多様な生物を育み、泥遊びの場として子どもたちの感性を豊かに育んできた。現在は水田開発や治水事業などによって沼はなくなつたが、特有の風習や文化は今も息づいている。

静岡県内10カ所の「今守りたい大切な自然」にも選ばれた浮島地区の環境保全活動は「浮島地区環境保全推進会」によって支えられている。同会は、農道の補修、川の清掃、外来性動物(ジャン

ボタニシシ)の駆除などを住民総出で行っている。中でも「浮島ひまわりらんど」は休耕田にひまわりの花を咲かせ、プロジェクトとして知られ、地区全体の一体感をより強固なものにしている。また、魚の避難・生息場所となる湾処(わんど)を整備する「浮島わんど」の試みで、浮島の歴史や自然を理解できる好機となっている。

先人から受け継いだ知恵や技術を生かし、美しい邑づくりを進める浮島地区。秋には「浮島うまい米コンテスト」を開催し、さらにおいしい米づくりに取り組むなど、浮島うまい米のブランド化を目指す。最近では酒米「誉富士」を育てて地酒を商品化することにも成功した。浮島の名が再び全国区となる日は近いかもしれない。